

教育目標『夢や目標をもって自ら学び、心豊かで、たくましい児童を育成する。』

美里町立南郷小学校

学校だより

〈第14号〉

平成28年11月22日

文責 教頭 高松 祐士



らぶリー南郷 2016

〒989-4205 美里町木間塚字高田5 Tel 0229(58)1106 Fax 0229(58)0461

<http://nango-es.misato-ed.jp>

図書まつり～ 図書に親しむ よいきっかけに ～

7日(月)からの1週間、図書委員会が中心となって「図書まつり」を行いました。図書委員会では、活発な意見を出し合いながら、

○借りる本は、いつもは1冊だけど2冊までにしよう。

○スタンプラリーをして、スタンプを5個集めたら、

図書委員のみんなで作ったしおりをあげよう。

○昼の放送で図書委員が本の読み聞かせや本の紹介をしよう。

○全校児童で「自分のおすすめの本」の紹介を作り、掲示しよう。

などを決め、その準備を進めました。2日(水)には「図書まつり集会」としての児童集会も行われ、クイズで盛り上がり、読書への動機付けとなりました。



また、学校では、読書に親しむための仕掛けがなされています。

毎週木曜日の「朝読書」。南郷小学校ブックサークルのボランティアの皆さんによる「読み聞かせ」も行われています。

昇降口から入ると「図書室から この秋 おすすめの本の紹介」のコーナーがあります。南小っ子は、長い本を読むのが苦手です。そこで、教科書に出てきた親しみやすい本を図書室の先生がそろえて紹介してくれています。

地区の老人クラブの皆さんと4年生が世代間交流

10日(木)に10名ほどの老人クラブの皆さんのご協力をいただき、その指導のもと、花壇にパンジーと葉ボタン、チューリップの球根を一つ一つ丁寧に植え付けました。ひもを使って等間隔にすることや植え付ける穴の深さなど、老人クラブの皆さんの手際のよさや丁寧さに感心しながらも、子供達は交流を楽しんで作業していました。

これらの花は、きっと来春に入学する新入生を歓迎してくれるものと思います。

作業終了後、子供達は老人クラブのみなさんと交流活動も行いました。



『火災避難訓練』

8日(火)に給湯室から出火という想定で、火災避難訓練を実施しました。「お・は・し・も」を合い言葉に子供達は校庭へ避難しましたが、取り組む姿勢は真剣で整然としていました。

お・・・おさない
は・・・はしらない
し・・・しゃべらない
も・・・もどらない

ご家庭のお声がけ、ありがとうございます。

7日(月)～11日(金)までの1週間、全校児童を対象として今年度4回目の「家庭での学習時間とノーテレビ・ノーゲームデー」の調査を実施しました。

家庭学習への取組については、各学年とも平均ではおおむね目標を達成できており、前回の調査と比較すると、どの学年でも平均時間が増えています。この成果を学校でもどんどんほめていきたいと思いますので、ご家庭でのご協力とお声がけをお願いいたします。

また、ノーテレビ・ノーゲームの日を設定して、テレビ等を見ないで生活できている児童は、3年生を除いて減少しきています。視聴平均時間も多くなってきている傾向が見られました。テレビやゲームが子供達の身体等に及ぼす悪影響は視力低下だけではありません。テレビやゲームの時間が多く、少し心配だなあと感じる児童もいます。引き続き、ご家庭でのご協力とお声がけをお願いいたします。

「睡眠時間8時間以上」と「朝ご飯摂取率」については、ほとんどの児童が規則正しく生活できていることが分かりました。ありがとうございます。



	＜家庭学習への取組時間＞		＜ノーテレビ・ノーゲーム＞		＜8時間以上睡眠・朝ご飯摂取率＞	
	目標時間達成	平均時間	設定している	平均時間	睡眠時間	朝ご飯摂取率
1年生	77%	33分	26%	66分	97%	95%
2年生	86%	32分	62%	51分	100%	100%
3年生	94%	46分	44%	69分	97%	97%
4年生	84%	55分	19%	97分	97%	100%
5年生	86%	83分	35%	70分	92%	95%
6年生	72%	69分	33%	105分	97%	100%

過剰なメディアへの接触は、現実体験の時間を大きく削ります。例えば、一日4時間メディアと付き合うことは、起きている時間の約4分の一、つまり12歳になるまで3年分の現実世界体験の機会を失うことになります。これでは、子どもの脳（こころ）は成長できないのかもしれない。

子どもは、保護者や子ども同志の会話や遊びの中で、直接顔を合わせての現実体験を共有することにより、「自分の気持ち」を伝えるための言葉や「ほかの人の気持ち」を感じる力を発達させ、親子の絆（人間の絆）を育み、身体や脳（こころ）を成長させます。

親がテレビ・ビデオ・スマホを見ながら、あるいはテレビ・ビデオ・スマホにまかせる育児は、親と子どもが顔を会わせる時間を減少させ、子どもの言語や感性の発達を阻害する危険があります。乳幼児期には、親子共々テレビ画面から離れ、一緒に会話し絵本を読み、身体遊びを楽しむ時間が大切です。行き過ぎたテレビ・ビデオ・ゲーム・スマホは、笑顔が少ない、視線があわない、言葉が乏しいなど、対人関係の発達に問題がある子どもをつくる危険があります。

食事時のテレビ・ビデオ視聴は止めることが大切です。食卓は、家族の大切な時間を過ごすところです。顔をあわせて、お話しを楽しみましょう。家族とは共に食事をするものという意味があります。

非現実的体験を重ねるメディア漬けの生活は、様々な発達段階で子どもに悪影響を与えます。幼児期では現実と非現実との区別が困難です。テレビ・ビデオ画面上の非現実的な暴力的で高速な映像は子どもたちの脳を激しく揺さぶり、子どもの無意識の脳に「この世は恐ろしいところ」とか「やられる前にやれ」というメッセージを埋め込む危険があります。さらに、幼児期の非現実体験が過剰になると現実体験が絶対的に不足します。結果として、幼い脳（こころ）のまま、身体だけが大きくなると考えられています。大人子どもの始まりです。

思春期の青少年たちの過剰な不適切なメディアへの接触は、脳（こころ）の疲労「慢性疲労」を増悪させて気力や自分の気持ちをコントロールする力を奪い、新たに登場した社会的現象（理由のないいじめ、むかつく・キレル、不登校）や反社会的事件に繋がる可能性がやばなっています。

メディアへ接触する総時間を制限することは、とても大切です。過剰なメディアへの接触は、興奮と緊張を与え、脳（こころ）の疲労を生みます。ゲームは過剰な興奮と緊張を与え、ゲーム中毒を生みだし、極度の心身の疲労をもたらす危険性があります。ゲーム遊戯時間を制限し、ゲーム機から離れる日（ノー・ゲーム・ディ）を設けることがゲーム中毒の予防として重要です。

過剰で不適切なインターネット・ケータイ・スマホ等への接触は、脳（こころ）の疲労を増強し、善悪の判断を鈍らせ、危険な「仮想現実世界」にのめり込ませ、現実と非現実世界の境界線をあいまいにし、反社会的事件へ繋がる危険性が心配されています。

メディアを利用するルールをつくることは大切です。メディアを上手に活用し、メディアを正しく読み解く力を育てることも大切です。

＜仙台医療センターHPより＞

みんなの気持ちが伝わりました！

東日本大震災のときに心温まる励ましを頂いていた熊本県の美里町立砥石小学校へ、5年前の感謝の気持ちを込めて熊本地震の見舞いメッセージを夏休みに送付したところ、過日お礼の返事(裏面)が学校に届きました。砥石小学校から頂いたメッセージは、12月になりましたら校舎内に掲示いたします。

宮城県

美里町立南郷小学校

校長 兵藤 正昭 様

暦の上では冬となり、木々の葉も見事に色づく季節となりました。4月の地震から7ヶ月目を迎えようとしています。長く感じる日々もありましたが、あっという間に過ぎたようにも感じているところです。

本校では、4月の本震により体育館が一部損壊しましたが、早期に修理に取りかかることができ、9月から使用できるようになりました。また、耐震改築6年目ということが幸いだったかと思いますが校舎に大きな被害はなく、1週間の臨時休校後、授業を再開することができました。しかし、相次ぐ余震と大雨による被害も重なり、一時避難、車中泊、仮設住宅への入居を余儀なくされる家庭もあり、心が大きく揺れ不安定になる子どもたちもありました。それらの子どもたちへの対応として、他県教育委員会からの教職員の派遣を受けたり、緊急対応としてのスクールカウンセラーの派遣をいただいたりする等、多くのご支援をいただき徐々に子どもたちも落ち着きがみられるようになってきたところです。

今回改めて、災害に対しては物的にだけでなく、心のケアが大切であることを実感することとなりました。

そのような中、貴校からの心温まるメッセージをいただいたことは、子ども達に元気を与えていただく一助となりました。また、人と人との繋がり大切さを経験を持って学習する機会とすることができました。さらに、児童も先生も入れ替わっておられる中、5年前のことに対してお返しをされる貴校の教育活動に対して、教職員として学ばせていただきました。大変ありがとうございました。

児童会を中心としながら、子ども達が貴校児童の皆様へのお礼と感謝の気持ちを込めてメッセージを書きましたので、同封いたします。

最後になりましたが、東日本大震災という大きな災害からの復興は道半ばと伺っております。校長先生をはじめ教職員の皆さま、児童の皆さまのご健勝と貴地域の一日も早い復興を祈念いたしまして、略儀ではありますが、書中をもってお礼とさせていただきます。

平成28年11月10日



美里町立砥用小学校

校長 野尻 絹子



宮城県美里町立南郷小のみなさんへ
砥用小学校に励ましの色紙をくださって
ありがとうございました。色紙は全学年が
見て、喜んでいました。

地震の影響で、体育館が使えなくなり
ましたが 10月には修理が系冬わり、体育
館がやっと使えるようになりました。

今、全校児童は元気いっぱい、笑顔も
いっぱいです。遊ぶ時はたくさん遊んで、
学ぶ時は真剣に取り組んで、毎日がんば
っています。

みなさんを見習って、これから自分達も
地域の人たちに元気を与える取組
みを積極的に行っていきたいです。

宮城県美里町立砥用小学校 児童会長 吉田尚悟

